

令和7年度 第1回 都筑区地域福祉保健計画推進委員会 議事録

日時：令和7年7月3日（木）

午前10時から12時まで

場所：都筑区役所 6階大会議室

出席者：別途名簿の通り

【開会】（進行：福祉保健課長）

- ・ 区長あいさつ
- ・ 新任委員2名の紹介
- ・ 代理出席の紹介

【議題】（進行：名和田委員）

1 令和6年度 つづき あい基金助成金 助成報告について

資料1に基づき、事務局より説明。

第5期地域福祉保健計画期間のあい基金は、より活用しやすい形にしていきたい。

<質疑応答>

特になし。

2 第5期都筑区地域福祉保健計画策定進捗状況および区民意見募集について

資料2に基づき、事務局より説明。

<質疑応答>

特になし。

3 意見交換

第5期都筑区地域福祉保健計画素案(案)について、資料3および4を参考に意見交換。

(1)『区民意見募集の方法について』

- ・ 意見募集の周知方法など

(委員)

障害のある方の日中活動を支える日中活動事業所が区内に相当数あるため、意見を募るのは一つの手だ考える。市域の計画は、ヒアリングに近い形でそのような手法を用いている。

(委員)

高齢者が今後増えていくことを見据え、高齢者への見守りに関する意見を聞いた方が良い。

(委員)

ヒアリングは答えやすいため、「どんな都筑区になってほしいか？」等を子どもにも聞いてほしい。

(委員)

Popola は、未就学児が利用している施設。30～40 代の保護者は働き世代であるため、地域とのつながりが希薄している。子どもと保護者の声を聞く機会が少ない。SNS を活用し、学生も含めて若年層に計画そのものを知ってもらえると良い。選挙の際に候補者の YOUTUBE を見ている方も多く、冊子を読み込む習慣が減っているため、様々な媒体で発信できると良い。

(進行)

大学でも資料を配布しなくなっている。デジタル化が進んでいるため、YOUTUBE 等の活用が必要。町田市で市民へのアンケートを実施したところ、外国籍の方が区の窓口へ出向いて回答された。様々な立場の方から意見を集められるようにしたい。

(2)『素案の内容について』

- ・多様性に関連する文言や掲載内容について
- ・素案全体を通して気になる箇所など

(事務局)

素案 P.17 および意見交換シートをもとに多様性の表現に関して悩んでいる部分を説明。

「様々な立場や背景のある人には～」の前に、「障害のある人や外国人、性的少数者等」という文言を入れるか迷っている。市計画には同様の文言が入っている。

多様性について、自分の意思に依らないものは性別や人種など、自分の意志に依るものは価値観や生活様式、嗜好などが挙げられる。さらに集団が好き、孤独を好むなど、価値観や生活様式は個人で様々である。

事務局としては、漫画やイラストでの表現も検討しているが、皆さまのご意見を伺いたい。

(進行)

重要な部分であり、国内外で議論が活発になっている。

(委員)

明文化することで、その立場の方たちが区別されていると感じる方もいるのではないかと。ボランティア登録に来られたドイツ人の方に多様性について質問したことがある。日本語が堪能で、国際交流協会でも勤務経験があったが、様々な場面で自分が外国人であることを突き付けられると仰っていた。また、多文化共生についても質問したところ、共に感じ合うことが必要と仰っていた。

お互いを知ろうとすることでコミュニケーションが生まれる。区別がない、線引きしないことが多様性というイメージを持っている。自分の物差しを持たないことを心掛けて関わっている。

(委員)

同じ都筑区民として共感することが大事だと思う。

(委員)

横浜市の人権教育は、「誰もが安心して豊かに」をキーワードに 20 年以上取り組まれている。様々な背景を持つ子どもや家庭があるため、具体的な文言で示すのは危険だと考える。子どもたちの声を学校でも吸い上げていく必要があり、地域で子どもを支えていく方向で計画が進められると良い。子どもたちは学校だけでなく、地域でも経験させてもらっている。

(委員)

地元の農家と農福連携に取り組んでいる。農家や農地が多い都筑区の強みを活かした良い事例だと考えている。農福連携は障害福祉だけでなく、引きこもりや高齢者、子ども等、福祉の対象は幅広く、色んな多様性を含んでいる。特定して表現しなくても良いのではないかな。

(委員) 外見では分からない価値観や考えを持っている人がいる。漫画での表現であれば、キャラクターを固定せず、相手によって立場が変わるような漫画にしてはどうか。また、意見募集はキャラクターに話しかけるように回答してもらおう形にすると良いのではないかな。

(進行)

市計画では、分かりやすいように具体的な表現をした。

(委員)

限定的に表現しない方が良いのではないかな。ただし、議論する際は具体的に話すべきであるため難しい。差別や区別は、人類の歴史の中で獲得してきたものであるが、近年社会状況にそぐわなくなっている。

(委員)

P.23「振り返りの道しるべ」フローチャートについて、線をどのように繋げるかは人それぞれと考える。

(進行)

線の引き方は、市計画でも悩んだところである。線を引くと分かりにくくなってしまう。

(事務局)

線を引いているところだけでないという意見は出ていた。5 年間の評価をしていくにあたり、主なところに引いて示している。線を引くかどうか、補足の説明を入れるか検討する。

(委員)

参考指標をどのように取るのか。例えば、フローチャートのアウトプット 2-②「身近な地域における居場所づくりを推進します」は、数値を入れる形になるのか。

(事務局)

居場所といってもサロンや子ども食堂など様々である。具体的に評価していくが、冊子には抽象化して掲載している。

(委員)

素案の冊子は全体的に具体的な取組が分かりにくく、知らない方には「はあと de ボランティア」「インクルーシブ交流事業」等の用語は知らない方もいるため説明が必要。また、「あ」は小さい「ぁ」である。素案を読んだ人が分からない点を出来るだけなくした方が良い。意見募集にあたっては精査が必要。

(進行)

区によって概括的な冊子、具体的な冊子がある。細かいと読んでもらえないため、コラム等で補足していけると良い。

(委員)

各地区でサロン等の活動をしている。地区別計画では、多様性を具体的な形で表現できるのではないかと。また、個々によって多様性の考え方は異なる可能性もある。地域でも検討していきたい。

(委員)

都田地区では、子どもにも意見を出してもらった。高齢者が増えているが、老人会加入率は減少している。コロナの影響で生活環境や人間関係、家族関係が変化してきており、制限されていることも多い。これまで4期に渡って計画を進めてきたが、課題が変わっていない。広く計画を知ってもらえると良い。

(委員)

各地区で考えていかなければいけないことであり、将来を見据えて地域づくりをしていく。

(委員)

素案の印象が柔らかく温かい。地区でも若年層をどのように巻き込んでいくか検討した。子どもが小さくて活動に参加できない親もいるため、子どもを預かる仕組みが必要なのではないかという意見が出た。これから高齢者を支えていくのは子どもや若い人たちであるため、地域での関わりを持ってもらえると良い。

(委員)

P.6のピクトグラムが分かりやすい。月1回会議があるため、概要版を配布したい。

(委員)

都筑区は、県内で住みたい街にランクインした魅力的な街である。多くの人が意見を出しやすい形にしてほしい。

最近、紙おむつやパッドをしている男性が見受けられるが、トイレに捨てられる場所あるのか気になっている。捨てられる場所があれば、そういったことも安心に繋がると思う。

(進行)

まさしく多様性のひとつである。

【講評】

(進行の名和田委員)

今回3つの柱が更新され、具体的な文言が加えられた。引き継ぎながら発展させていくこ

とが重要である。市計画で使われたロジックモデルを採用しているが、確率された手法ではない。区内で活動されている方にも馴染むようなものになると良い。

また、外国籍の方が参加していないため、検討が必要。

地域で活動できる条件の人が客観的に減ってきている。自営業や専業主婦（夫）、リタイアした高齢者が少なくなっており、社会構造が変化している中で、地域福祉保健計画と地区別計画は重要な仕組みである。

【事務連絡】

事務局よりアンケート記入依頼。

【閉会】

都筑区社会福祉協議会会長より挨拶。